

PRP療法を受けられる患者さんへ

【PRP療法】

自己血由来多血小板血漿（Platelet Rich Plasma；PRP）療法

【PRP療法と従来の治療法との比較について】

テニス肘、またはゴルフ肘と呼ばれる、肘内側・外側上顆炎や、ジャンパーズニーと呼ばれる膝の膝蓋腱炎や、アキレス腱炎などの腱付着部症に対する治療は、ステロイド剤の患部への注射が主に行われておりましたが、難治性の患者さんや、ステロイド剤の頻回の注射により、組織損傷・腱断裂などの副作用を起こすことがありました。近年、ステロイド剤を使用しない新しい治療法、自己多血小板血漿注入療法（PRP治療）が開発されました。

ステロイド剤は強力な抗炎症作用により、速効性のある鎮痛効果は得られますが、その一方で免疫抑制作用による感染の危険があります。また生体が本来持つ正常な治癒能力でもある「炎症」を過度に抑制することにより、損傷した組織の変性・壊死を起こすと永続的な機能低下を起してしまいます。

PRP治療は血小板に含まれる成長因子により損傷部位の組織を再生（治癒）し本来の正常な機能を回復することによる治療効果が期待できます。

【PRP療法の方法について】

治療を受ける患者さんから、通常の採血検査で採血する量とほぼ同量の約10mlの血液を採血させていただき、特殊な精製キットを使用して、血液にある血小板のみを精製し、血小板濃度を通常の血液の約3～7倍に高く濃縮した、自己多血小板血漿（PRP）を作製し、これを患部に注射する療法です。

【安全性について】

患部に注射するPRPは患者さん自身の血液から作成しますので、肝炎ウイルスなどの感染の危険性が全くなく、人工合成した化学物質や非自己のタンパクを全く含まないのでアレルギー反応を起こすことなく安全にできます。

【治療効果と副作用について】

これまでの報告によると、個人差や注射する部位により治療効果に差があり、1回の注射で症状が改善する方もおられます。一般的には注射後の症状改善具合を見ながら患者さんのご希望があれば、約1ヶ月の間隔を開けて計3回程度を目安に治療を行います。ただし、損傷部位の程度や組織の治癒能力は個人差がありPRP治療による効果が全く得られないこともあります。

実際の注射は細い針を使用して注入しますが、軽度の痛みがあります。注入後3～4日間は細胞の活発な代謝が生じて、軽度の炎症を伴うため腫れ・発赤・疼痛がありますが徐々に軽快します。

【合併症について】

この治療に特別な合併症はありませんが、注射一般に起こりうる、局所の感染や、針先による末梢神経損傷などの可能性はあります。できる限り超音波装置を用いて正確で安全な注射を行います。万が一合併症が起きてしまった場合も治療負担については、自費扱いになりますのでご了解ください。

【注意事項について】

注射後は、注入したPRPの拡散を防ぐために約1時間の患部の安静と注射当日は水に濡らさないこと・禁煙禁酒・マッサージの禁止をお願いします。

【守秘義務について】

医学的情報は法律で要求される期間、秘密を守って保存されます。知り得た個人情報については、当院の「個人情報保護方針」に従い、個人情報の保護を徹底し、守秘義務を遵守します。ただし、個人を特定できないような情報については、個人の許可なく、教育や研究に使用することがあります。

【費用について】

保険診療の対象外のため、一般の健康保険を使用することはできません。PRP治療に関わる費用は全て自費で患者さんにお支払いいただくこととなります。当院ではPRP治療1回につき20,000円(税抜き)となりますが、患部の範囲により1回に使用する精製キットの本数が増えることがあります。その場合、1本につき10,000円(税抜き)追加となりますのでご了承ください。

広島赤十字・原爆病院 整形外科
電話 082-241-3111 (内線 2070)